

核のない世界に向かう、ドキュメンタリーの上映を終えて

10月22日(金)、鎌倉生涯学習センターで2本のドキュメンタリー映画が上映されました。映画名は「フラッシュ・オブ・ホープ」と「ヒバクシャとボクの旅」(双方NGO団体ピースボート作成)。参加者は少なかつたものの、充実した映画会でした。

前者はカナダ在住のサーロー節子さんの証言を中心に被爆者の航海を追った作品です。原爆投下の実像を生々しく描きつつ、サダコの祈りをアニメーションに託して表現したもの・・・。

後者はピースボートが多くの被爆者と共々、各寄港地で「被爆証言」を語っていく様子を映画化したものですが、戦争というものを全く経験したことのない若い監督が、「被爆証言を聞いても、どうしたらいいのかわからなかった」という悩みを抱えながら、淡々と語っていく語り口の中から、戦争というものの理不尽さや惨さが伝わってくるものでした。ナチスの迫害からの生存者や、ベトナムでの枯葉剤の被害者と語り合った被爆者の「我々もいずれ誰かが最後の一人になる・・・。」というつぶやきは重い響きを持って胸を打ちました。

当日集まったアンケートには「とても印象に残る映画であった」「1980年生まれの若い人が、制作を通して戦争について理解を深め、問題意識を高めていく過程に共感を覚えながら、自分の勉強不足に気がつかされた」「23,000個の原爆が落ちる音を想像しながら我に返った」「もっと多くの人に観てもらいたい」等々と記されています。また「もっと若い人の参加を考えると良いのでは・・・」との意見もありました。九条の会の思いを、若者たちの心にどう届けられるか・・・。九条の会として考えていかねばならない今後の課題と受け止めています。

飯田進氏講演会

「過去から照射する現代」

11月19日(金)

鎌倉論語会館

太平洋戦争中生還率7%のニューギニア戦線に従軍、BC級戦犯として現地で服役の後、スガモブリズンに送還され、釈放されたのは30過ぎていた飯田氏は、その苛酷な体験を通して今の日本に警鐘を鳴らされた。

井上ひさしさんの絶筆から、「過去は泣き続けている、大抵の日本人が振

返ってくれないから」を引用して話された。

五〇年に朝鮮戦争が勃発した。程なくアメリカの示唆により警察予備隊が創設されたが、再軍備には多大な疑惑を持った。日本は朝鮮戦争特需及びベトナム戦争を背景に経済成長をとげたが、他民族の血で購われた繁栄を享受したことが戦後日本の禍根になっていると思う。

戦友の霊を慰めに靖国神社に何度か行ったが、祭文の「あなた方の尊い犠牲によって今日の繁栄がある云々」に引掛かる。戦地の兵士たちの餓えと疲労とマラリアで野垂死した断末魔の無念の思いは全く伝わってこない。日本が繁栄の中でいかに腐敗していたかは、政府が米空軍の将軍カーティス・ルメ

イに勲一等旭日大綬章を贈った一例もある。航空自衛隊の創設に功績があったというのだ。彼こそ無差別空襲及び広島・長崎の原爆投下で日本を焼野原にした張本人だ。馬鹿げた話だ。

現在、特に若者達に未来に対する閉塞感が強い。そこから戦争待望論が出てくるのを恐れる。今の日本に私は絶望しか持てない。だからこそ戦争のない世界への希望の灯を燃し続けなければならぬと思う。井上さんの「過去を見据えれば未来が見えてくる」の言葉通り、どんなにおぞましい過去でも、きちんと見据えなければ明るい未来の展望はないと思う。

質疑応答を含め二時間余り熱弁を振られた。戦争の時代を生抜いてこられた方のお話は感銘深いものがあった。

毎月の9の日行動

鎌倉・九条の会の9の日行動は、1月は成人の日、5月は憲法記念日の3日に、その他の月は毎月9日に小町通り入り口周辺で、平日は15時から、土・日・祝日は11時からおこなっています。

成人の日には鎌・九製作の憲法手帳を配ります。その他の月は、特製のリーフレットや催し物の案内などを300部ほど渡しています。

思いがけない出会いや、9条について未知の方とも話ができるのも楽しみです。10分でも20分でもご一緒にいかがですか。ご都合の付く時に直接小町通り入り口(2月以降)までいらしてください。お待ちしております。

◆2011年の行動

1月10日(月) 成人の日	12:30
	鎌倉芸術館前
2月 9日(水)	15:00
3月 9日(水)	15:00
4月 9日(土)	11:00
(19時から「憲法のつどい2011鎌倉」)	
5月 3日(火) 憲法記念日	11:00